

生活訓練と社会生活の認識

高橋 さやか

いわゆる「六領域」の中でも、カリキュラムをたてる教師側として、保育活動にかかわる具体的なイメージをもちにくいのが、「自然」と「社会」であるといえるようである。

「自然」と「社会」とは、それぞれ「自然科学」「社会科学」から「科学」を外した称呼であろうか。それにしても、かなり漠然とした、またあいまいな印象は否めない。

小さなスペースの中では、カリキュラム論の基本的な問題をとりあげてあげつらうこともできないので、多少の無理や舌足らずになることは目をつぶって(つぶらせて)いただくことにして、さし当り、「言語」や「音楽リズム」や「絵画製作」そして「自然」において考えるよりもより多く「社会」において考えることが妥当だと思われる問題について——その中でも重要な側面と考えられる点に、ふれるだけふれてみたいと思う。

表題に掲げた通り、「社会」という保育……幼児教育の内容を考える場合、生活訓練と社会生活の認識とは、どちらも欠くことのできない要点である。また、どちらも、たいていのカリキュラム

に、落ちなく、一応はとりあげられているであろう。ただ、私は、私自身の関係している園の場合の反省も含めて、この訓練の面と、認識(を獲得させ、そのことを確認する)面とが、何となく混同され、保育活動の具体的な形の中で、やはり、あいまい不徹底なままに漠然とした存在になっている、と思われるのではない。

もちろん、生活訓練——習慣づけにしても必ずしも身体的生理的な面ばかりでなく、ことに習慣確立までの過程では多分に意識や意志を目ざめさせた上でなされなければならない活動が多く、それはまた当然に、社会生活の認識につながっている。しかし、つながっているからといって、教師側までが、とりあつかいの上であいまいかつ漠然としているならば、子どもの獲得するべき社会性——社会人としての能力(性格・傾向上の調整力も含めて)

——そのものが、あいまいとなり、漠然としたものにならざるを得ないであろう。同じ「食事のしつけ」にしても、食器のあつかい方の上達のためには、子どもの認識の向上がなければならぬ。食前食後の手洗いとか口すすぎとか、或いは好ききらいとかにつ

いては、知識や認識が大切でまた好ましい習慣づけに効果的な役割をもつ面もあるけれども、それ以上に、規則的な反復練習や認識・知識に至る以前の感覚的な問題——条件反射をよび起す素因となるべき、その条件が、考慮されねばならないであろう。

体得しなければならぬことと、理解し判断しなければならぬことと。それは必ずしも同様ではないのである。

整列して行進すること、鑑賞音楽をはずかに落ち着いて聞くこと、遊んだあとかたづけを整然とすることなどは、どちらかといえば「体得すべき」ことに属している。

必要な自己主張をしたり、喧嘩していた状態から合議ができるようになり、交通上の注意をしたりというようなことは、そのときどきに「理解し判断し」なければならぬ要素が大きい。

さきにものべたように、これら二つの面は截然と別個のものであるわけではないけれども、教師——保育者のとりあつかいの中で、訓練をするか、認識の獲得に力を入れるか、ということはおのずから異っている。反省しまた気にもなることは、認識をはつきりさせることが必要なのに、ただ訓練……さらに劣悪な場合は、標語をくり返し暗記させることで片付けようとしていたり、逆に、訓練し条件反射を成立させることが大切であるような問題について、つくづくどくと説明——お説教したり、「いいの？ いけないの？」などと、わかり切った判断をことあらためてさせたり、しているのではないか、ということである。到達したところについて考えた場合、認識や知識から出発したことも、無意識

的な習慣的行動に消化されてしまうのは、ほとんどの事がらについて肯定されるかもしれない。

その意味で、何といっても、幼児期の教育内容としての「社会」は、つまるところ、生活訓練、といつてよい事項で、だいたい70%くらいもみたされる、と一般に見られているのではないだろうか。たとえば、さきの例の、交通安全に関する幼児自身の注意ある行動の問題にしても、たしかに「生活訓練」の一つであることにまちがいはない。

しかし、実際に、交通規則や道路上で起りやすい危険について、しっかりと教え、子どもに知ってもらい、おぼえてもらうことなしに、無意識的に右側通行をし、道路鉞で示された横断歩道を渡る、という習慣を、子どもの中に成立させることは、不可能——少なくとも大きなまわりみちをすることになる。

この点で、「社会」における「知識教育」は重要なのである。社会生活についての確かな認識をもたせることは大切なのである。ただ漠然と訓練したのでは、訓練それ自身も結実しない。だんだんとそのようにならせる……生活経験を重ねてゆく中に、「社会性を身につけさせる」というようなやり方でなくて、しっかりと反復練習すること、意識や意志の働きもあわせて訓練すること、知識を与え、認識を確立させ、自己の理解と判断によつて行動方式を定める能力をもたせること、……そのそれぞれを教師自身が正しい身構えをもって実行することを考えなくてはならないと思う。

(西南学院短期大学)